

ドクターズアテンション インタビュー

良質で安全・高度な医療を、地域に密着した高度急性期病院

独立行政法人

労働者健康安全機構

関西労災病院 (兵庫県尼崎市)

病院長 林 紀夫



―― 全国に労災病院は32病院あるそうですが、当初の病院設立目的とは大きく変わってきていると思います。現在の関西労災病院の状況など教えてくださいませんか。

林 当院のことを労災に関係することだけをメインに行っている病院だと思っている方もおられるようですが、そうではなく、完全に高度急性期病院です。

しかし、もちろん労災関係のことは行っています。アスベストの検診などは当院の役割です。また、厚労省が進めている「治療就労両立支援」は、働いている人が大きな病気(がんが主流)をした時に、働きながら治療が終われば職場への復帰を支援しようという活動ですが、「関西労災病院治療就労両立支援センター」として協力しています。厚労省の両立支援モデル事業に、労災病院機構全体で取り組んでいます。平成26年度から「乳がん」の治療と就労、平成

27年度から「糖尿病」の治療と就労の両立支援を実践しています。

関西労災病院の組織は「診療部門」と「勤労者医療総合センター」に分かれており、そのセンター内に「治療就労両立支援センター」と「地域医療室(勤労者医療推進室)」が在ります。

地域医療支援病院として 阪神南地区を支える

そして病院の「診療部門」は、労災と名前に付いておりませんが、完全に高度急性期病院です。阪神南地区にあり、尼崎、西宮、芦屋で二次医療圏を構成しています。この地域の高度急性期医療は、当院と、新しくできた兵庫県立尼崎総合医療センターと兵庫医科大学病院で受けています。阪神南地区は整合性が取れてうまく運用されていると思います。

平成21年末に地域医療支援病院として認められましたので、病診連携・病病連携を進め、ご紹介いただいた患者さんにご満足いただけるように、平成23年4月に医療連携総合センターを設置しました。その後、1日入院患者数、外来患者数が着実に増加、手術症例数および救急患者受入数も大幅に増加しました。内訳は尼崎の患者さんが50%、あとは西宮、そして宝塚や伊丹などかなり広域から来られているのが特徴です。

関西労災病院 診療部門を支える3つの柱… 1つ目はがん診療

当院には、ほぼすべての診療科があり、殆どの疾患を診ていますが、病床数が642床ですので、得意とする領域を特に重点的に診ています。

1つ目の柱は、がんの診療です。国の定める地域がん診療連携拠点病院の指定を受けているのは、阪神間では当院と兵庫医科大学病院の2病院だけです。特に消化器系のがんが得意です。大腸がん、肝がん、膵がんは腹腔鏡下で手術を行います。また乳がんの手術の件数も兵庫県内でトップクラスです。阪神間のがん診療の中心病院として、患者さんに適切ながん医療を受けていただけるように病院の整備を行ってきました。

平成23年には手術待機患者さんの入院待ちを改善するため、新しい手術室を4室稼働しました。また、外来化学療法室をリニューアルして、窓のある明るい環境で患者さんにゆったりと治療に臨んでいただけるようにしました。手狭だった内視鏡室も移転、拡張しています。平成25年には放射線治療装置の更新のため、新しい治療棟の新築工事を行い、最新の放射線治療装置であるIMRT対応リニアック2台を備えた院内「がんセンター」として現在フル稼働しています。

2つ目の柱は循環器系 手腕を発揮する カテーテル検査

循環器系の中では心臓のカテーテル検査がかなり増えています。心筋梗塞には心臓のカテーテル検査をして、詰まっている血管を開通させる冠動脈治療PCIを行います。それ以外で増えているのが、糖尿病などで動脈閉塞した下肢を、昔なら切断していましたが、カテーテルで閉塞を解除させるという方法です。この末梢血管治療EVTにおいても日本でトップクラスです。また、お年寄りの不整脈も非常に増えています。昔は不整脈があると飲み薬でしたが、最近は不整脈も心臓までカテーテルを入れて、マッピングを行い、そこを焼灼してしまう、不整脈のアブレーション治療が行われます。これも日本でトップクラスです。循環器疾患の取り扱い数が非常に増えています。さらに脳の血管障害に関しても、当院ではもともと脳神経外科で対応していましたが、血管内の凝固を溶かすだけではなく、カテーテルを入れて閉塞部分を取り除く脳内血管内治療が得意な医師もいます。

血管撮影装置の増設、および今年1月にハイブリッド手術室を整備して、循環器疾患の診療機能が大きく向上し、さらに多くの循環器疾患の患者さんが来られるようになりました。これら循環器系が2つ目の柱です。

3つ目の柱は整形外科、そして回転の速い救急医療を

3つ目の柱は整形外科です。股関節・膝の関節グループ、脊椎グループ、手の外科グループ、スポーツ整形外科と専門分化しています。

また救急車受入数が大幅に増加しました。年間約6000台の救急車を受け入れています。平成24年に救急部を立ち上げてから倍以上に増えました。救急をすべて救急部で診るわけではなく、それぞれの診療科と分担しながら診ているのできることです。3つの柱プラス救急が当院のメインになりますので、患者さんの回転は非常に早く、平均在院日数は10日台です。当院でしかできない治療方法があり、他の病院からと環境整備により、余裕のある環境で検査・治療を受けていただくことが可能になりました。

労災病院ですのりハビリも充実しています。但し、急性期疾患のリハビリがメインで慢性期のリハビリはしていません。回復期リハには他施設へご紹介することになります。

若く優秀な医師たちが集まり 最先端の医療機器を駆使し 安全・安心の医療を提供

当院の医師の平均年齢は若いです。60歳以上は私と副院長の数名だけです。医師のピークは40代、50代ですね。ダヴィンチを使って血管をつないだり、腹腔鏡下の手術など、難しいオペは若くないとできません。優秀な研修医が当院を希望して研修に来られる方が多いので、初期研修と言ってもかなり優秀な研修医が揃っています。1年間トレーニングをすれば、2年目

からはもう普通に仕事ができるレベルです。

私が関西労災病院に赴任してから7年が過ぎましたが、この6年間で完全に高度急性期病院へと立て直しました。全国の32の労災病院の中で経営状態が良い病院になりました。病院の医療に関して国からの補助金はもらっていません。設備の更新なども全部自前でやっています。地方の労災病院はかつて炭鉱があったところなど、今は人口が少ないところにあるケースが多いので経営状態がよくありません。どの地域にあるかということは大きいですね。ここは尼崎市が当時の労働省に、病院を作ってほしいと要望を出して作られた病院です。

最近の医療の進歩には目を見張るものがあります。病院の医療機器を含めた環境の整備と職員の医療に対する能力と患者さんに対する思いやりの心が大事だと思っています。今後も、良質で安全な医療を提供することにより、患者さんに安心して医療を受けていただけるように職員一同努力してまいります。

◆林 紀夫 プロフィール

1947年 兵庫県生まれ
1972年3月 大阪大学医学部 卒業
1972年4月 大阪大学医学部 第一内科
1973年8月 関西労災病院 内科
1974年7月 大阪大学医学部 第一内科
1979年9月 米国テキサス大学医学部 生化学教室研究員
1981年5月 大阪大学 助手(医学部第一内科)
1987年8月 大阪大学 講師(医学部第一内科)
1997年4月 大阪大学 助教授(医学部第一内科)
1998年9月 大阪大学 教授(大学院医学系研究科分子制御治療学)
2005年6月 大阪大学 教授(大学院医学系研究科消化器内科学)
2007年4月 大阪大学医学部附属病院 院長
2010年4月 関西労災病院 病院長 現在に至る
所属学会・認定・資格
日本消化器病学会元理事、日本肝臓学会元理事長